

日本ナサニエル・ホーソーン協会資料室

田島優子 (宮城学院女子大学)

竹井智子 (京都工芸繊維大学)

I. Books

入子文子 (編著) 『ホーソーン研究』 7 ホーソーン研究会 (2020)

斉藤繁『N. ホーソーン『七破風の屋敷』と徳田秋声『あらくれ』——私は小説をこう読む』中央公論事業出版 (2020)

佐久間みかよ『個から群衆へ——アメリカ国民文学の鼓動』春風社 (2020)

竹内勝徳『メルヴィル文学における〈演技する主体〉』小鳥遊書房 (2020)

別府恵子『「聖母子像」の変容——アメリカ文学にみる「母子像」と「家族のかたち」』大阪教育図書 (2019)

II. Bibliographies

該当なし

III. Translations

井坂義雄 (訳) ナサニエル・ホーソーン著『トワイス・トールド・テールズ』(2019) (私家版)

IV. Articles

生田和也『「ホーソーンの最初の日記」における少年期の表象』『フォーラム』 25 日本ナサニエル・ホーソーン協会 (2020) pp. 1-17.

入子文子『「ファンショール」の新たな地平——名前を追って』『ホーソーン研究』 7 pp. 1-23.

植芝牧「ホーソーンとメルヴィル作品のキューカー的特性——「牧師の黒いヴェール」と『白鯨』における「真理」の直観」『紀要』 11 東京聖栄大学 (2019) pp. 1-10.

上原正博「読むことの誤謬——ナサニエル・ホーソーン「痣」を読むことのアレゴリー」『言語社会』 13 一橋大学大学院言語社会研究科 (2019) pp. 14-27.

大野 瀬津子「実用性の彼岸——1820年代の大学論争と *Fanshawe*」『英語英文学研究』 63 広島大学英文学会 (2019) pp. 35-47.

尾崎 裕子「若いグッドマン・ブラウン試論——結末における主人公の変化をめぐって」『立命館大学英米文学』 28 立命館大学英米文学会 (2019) pp.1-15.

栗山裕也「Hawthorne の *Fanshawe* における Fanshawe の記念碑」『ホーソーン研究』 7 pp. 24-34.

巽孝之「声なき絶叫——「税関」を通過して『白鯨』へ」下河辺美知子 (監) 高瀬祐子・日比野啓・舌津智之・巽孝之 (編著)『アメリカン・マインドの音声——文学・外傷・身体』小鳥遊書房 (2019) pp. 265-89.

中谷ひとみ「呪縛と解放——Fanshawe は赤いノートブックでいかに書いたのか——」『文化共生学研究』 19 岡山大学大学院社会文化科学研究科 (2020) pp.25-53.

中西佳世子「「手堅い現金」と「^{あぶく}泡のごとき功名」——ホーソーンの創作と報酬」吉田恭子・竹井智子 (編著)『精読という迷宮——アメリカ文学のメタリーディング』松籟社 (2019) pp. 57-80.

成田雅彦「Nathaniel Hawthorne の “The Birth-mark” 再考——Cherokee 族の強制移送と白人至上主義の論理」『関東英文学研究』 12 日本英文学会関東支部 (2020) pp. 119-27.

- 藤吉清次郎「ヴェンダース、アメリカ古典文学に挑む——ヴィム・ヴェンダース監督『緋文字』論」『アメリカ文学と映画』三修社 (2019) pp. 28-43.
- 古屋耕平「合衆国の陰画——ナサニエル・ホーソーンの“Chiefly about War Matters”と戦争ツーリズム」『言語文化』36 明治学院大学言語文化研究所 (2019) pp. 150-65.
- 増永俊一「遺物は語る——モチーフと表現をめぐって」『エクス：言語文化論集』11 関西学院大学経済学部 (2019) pp. 67-89.
- 山本茂一「Hawthorne が *Fanshawe* に採用したエピソードの興亡」『ホーソン研究』7 pp. 35-47.
- 鷺谷 里美「見える罪、見えない罪——ペロッタ『リトル・チルドレン』における『緋文字』の借用」『女子美術大学研究紀要』49 女子美術大学 (2019) pp.72-75.
- Kurahashi, Yoko. “The Circular Images and Community in ‘Ethan Brand’ and *A Week on the Concord and Merrimack Rivers*.” 『共生文化研究』4 東海学園大学共生文化研究所 (2019) pp. 1-11.
- Takahashi, Toshiaki. “Hawthorne and the Paradox of the Fortunate Fall: Eden Found in *The Marble Faun*” 『研究紀要』98 日本大学文理学部人文科学研究所 (2019) pp. 23-34.
- Tashima, Yuko. “From the Past to the Present: ‘Romance’ and Woman Characters in Nathaniel Hawthorne’s ‘Solitary Years.’” 『東北アメリカ文学研究』43 日本アメリカ文学会東北支部 (2020) pp. 20-35.

V. Reviews

- 新井景子 *Performing Intimacies with Hawthorne, Austen, Wharton, and George Eliot: A Microsocial Approach*. (Maya Higashi Wakana 著) 『アメリカ文学研究』56 日本アメリカ文学会 (2019) pp. 81-87.
- 伊藤淑子 *Nathaniel Hawthorne in Context* (Monika M. Elbert 編) 『フォーラム』25 日本ナサニエル・ホーソン協会 (2020) pp.27-34.
- 城戸光世 *Young Americans in Literature: The Post-Romantic Turn in the Age of Poe, Hawthorne and Melville*. (Takayuki Tatsumi 著) 『アメリカ文学研究』56 日本アメリカ文学会 (2019) pp. 70-76.
- 林姿穂『アメリカン・マインドの音声——文学・外傷・身体』(下河辺美知子 監修 高瀬祐子, 日比野啓, 巽孝之編著) 『フォーラム』25 日本ナサニエル・ホーソン協会 (2020) pp.19-26.
- 藤本幸伸『痕跡と祈り——メルヴィルの小説世界』(橋本安央 著) 『英文學研究』96 日本英文学会 (2019) pp. 122-27.
- Farnell, David. *Young Americans in Literature: The Post-Romantic Turn in the Age of Poe, Hawthorne, and Melville*. (Takayuki Tatsumi 著) *Studies in English Literature*, English Number 61 日本英文学会 (2020) pp. 117-20.

VI. Essays & Miscellanies

- 青井格「九州支部研究会」『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 16.
- 池末陽子「若手シンポジウム 現代作家が愛した古典」(例会 研究発表要旨) 『関西アメリカ文学』56 日本アメリカ文学会関西支部 (2019) p.69.
- 植村真未「若手シンポジウム 現代作家が愛した古典 “Hawthorne”を描く——*The Brooklyn Follies*を中心に」(例会 研究発表要旨) 『関西アメリカ文学』56 日本アメリカ文学会関西支部 (2019) p.71.
- 小南悠「混入する病い——19世紀医学表象から読む *The Scarlet Letter*」(例会 研究発表要旨) 『関西アメリカ文学』56 日本アメリカ文学会関西支部 (2019) pp.64-65.
- 倉橋洋子「中部支部研究会」『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 15.
- 鈴木孝「東京支部研究会」『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 14.
- 「事務局だより」『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 16.

- 高尾直知「編集室だより」『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 17.
- 田島優子「資料室だより」『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 17.
- 辻祥子「第38回大会のお知らせ」『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 18-19.
- 富樫壮央「恩師を偲んで」『NHSJ Newsletter』38 (2020) pp. 20-21.
- 中西佳世子「関西支部研究会」『NHSJ Newsletter』38 (2020) pp. 15-16.
- 中村善雄・妹尾智美・栗山裕也・辻エリカ・植村真未・山本茂一「哀悼のことば——入子先生に捧ぐ」『ホーソーン研究』7 pp. 48-49.
- 西谷拓哉「ご挨拶」『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 1.
- 丹羽隆昭「川窪啓資先生を偲ぶ」『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 20.
- Fujimura, Nozomi. “‘The Outcast of the Universe’?: Hawthorne, Berti, and Doctorow’s Wakefield.” 『NHSJ Newsletter』38 (2020) pp. 4-5.
- Fukushima, Shoichiro. “‘Wakefield’ and ‘The Man of the Crowd’: Place, Viewing, and Morals.” 『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 6.
- Furuya, Kohei. “Difficult ‘Wakefield.’” 『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 7.
- Ito, Yoshiko. “Feminist Strategies for the Achievement of Economic Independence: *Woman in the Nineteenth Century* (1845) and *Women and Economics* (1898).” 『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 11-12.
- Kurahashi, Yoko. “Hawthorne and Horatio Bridge: From Friendship to Patronage.” 『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 13.
- Niwa, Takaaki. “On Some ‘Prophetic’ Features of Hawthorne’s Tales and Romances.” 『NHSJ Newsletter』38 (2020) pp. 8-9.
- Oda, Atsuko. “Emerson’s Concord as an Economic Bloc.” 『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 12.
- Sanada, Mitsuru. “Building a Prosperous Republic: Melville’s Critique of Franklin.” 『NHSJ Newsletter』38 (2020) pp. 10-11.
- Sano, Yoko. “Who Are ‘We’ in Nathaniel Hawthorne’s ‘Wakefield’?” 『NHSJ Newsletter』38 (2020) pp. 5-6.
- Uchida, Yu. “Reading Queer History: Reconsidering the Fortunate Fall in *The Marble Faun*.” 『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 3.
- Yamaguchi, Shimpei. “The Unpainted Models as Romance in *The Marble Faun*.” 『NHSJ Newsletter』38 (2020) p. 2.

※ウェブ公開にあたりまして、以下の修正を施しました。訂正してお詫び申し上げます。

- ・辻祥子先生の「第38回大会のお知らせ」が抜け落ちていましたので、VI. Essays & Miscellanies に追記しました。
- ・VI.の Fujimura Nozomi 先生のお名前の表記に誤りがありましたので、修正しました。
- ・その他、タイトル等について表記上の統一・調整を行いました。

※論文の記載漏れなどお気づきの点がございましたら資料室担当者までお知らせください。また、論文などを執筆された際には資料室に一部お送りいただくか、あるいはタイトルなどを資料室担当者までお知らせください。